

2023年度 光塩女子学院幼稚園 学校評価報告書

2024年 3月
(学)光塩女子学園 光塩女子学院幼稚園

1 本園の教育目標及び目指す子ども像

<教育目標>

カトリック教育を基本とし、「世の光 地の塩として社会に貢献できる」人間形成を、幼稚園から培うことを目標とする。

<目指す子ども像>

- 神さまからいただいた自分のいのちと生きとし生けるすべての命を大切に子ども
- 感謝の心、思いやりの心を大切にできる子ども
- 自分から挨拶のできる子ども

2 本年度の重点目標及び具体的な取組

<重点目標>

1. 「カトリック幼稚園」としての教育実践の充実
2. 特色ある教育活動「子どものそばにいつも絵本」の教育環境及び読書活動の広がり
3. 「0歳から6歳まで」の子育て支援(共育・協働)の充実

<具体的な取組>

1. カトリック教育の在り方及び実践についての振り返りと新たな実践
 - ・日常の保育及びカトリック行事等を踏まえたカトリック教育年間カリキュラムの見直し
 - ・カトリック研修の実施
2. 図書室「えほんのもり」の環境整備及び読書活動の教育実践の充実
 - ・司書と担任との連携強化(読み聞かせや日々の保育の選書、絵本の貸し出し等)
 - ・図書室「えほんのもり」及び各保育室の読書環境のさらなる充実
3. 「0歳から6歳」の保育内容の見える化を目指す広報活動の充実
 - ・ホームページ、Instagramの定期的な配信及び適時の配信
 - ・未就園児の会においての子育て相談及び広報活動の充実

3 評価項目に対する自己評価及び学校評価関係者関係者評価

A 達成できた B まあまあ達成できた C 達成できていない

○成果 ★課題及び改善策

評価内容	具体的評価項目	総合	○成果★課題・改善策		評価	感想・意見等	
			幼稚園			学校関係者	
1 建学の精神及び教育目標の具現化	① 「世の光・地の塩として社会に貢献できる」人間形成を培うことを目標として日常の保育を行っている。	B	○建学の精神及び教育目標の具現化について、幼稚園全体で意識して、日々の保育が進められるようになってきている。 ○園長講話・懇談会・園だより、保育参観等にて、建学の精神及び教育目標の具現化について伝えることにより、保護者等にも意識していただけるようになってきている。 ★園全体で、日々の保育にてどのように具現化をしていくのかを、今まで以上に検討し、PDCA(企画・立案→実践→評価・改善)を繰り返し、より充実していく。	B	○日々のお祈り、宗教の時間、聖歌の時間、七五三子ども祝会、クリスマス聖劇等々、日常の保育を通して育てていることがわかった。 ○建学の精神及び教育目標等について、園だより、懇談会等を通して、保護者にも周知していることが大切であるということを変更して感じた。 ★「目指す子ども」について、建学の精神、保育内容、教育方針が具現化され、子どもたちの育ちに見えるような「目指す子ども」を設定していくことが好ましい。 ★誰にでもわかる平易な言葉で伝えられるよう、教職員で再検討していくことが必要であると感じた。		
	② 「目指す子ども」を具現化するために、園全体で教育課程・年間指導計画を作成している。						
	③ 学園の建学の精神及び園の教育目標について、保護者等に周知することができている。						
2 カトリック園としての自覚と保育の実現	① 「一人ひとりかけがえのない存在である」というカトリックの精神に基づき、日々の保育を実践している。	A	○昨年度、園全体で再構築したカトリック教育年間カリキュラムに基づいて保育を進めることができた。その結果が子どもたちの日頃の行動にも見られるようになってきている。(挨拶、自分と人を大切にする、人のために自分のできることを見つけ行動する等) ○宗教の時間は、満3歳児こり8回、年少ほし10回、年中ゆり16回、年長ばら16回、聖歌の時間は、各学年10回実施することができている。 ○宗教の時間・聖歌の時間での教えを、担任がさらに、深め、広げていくために、指導計画を作成し、実践することができた。(今年度は、宗教の時間→年中ゆり組、聖歌の時間→年長ばら組実施) ★今年度、担任による宗教の時間・聖歌の時間を試み、今まで以上に日常の保育にいかされた。来年度は全学年で実践していく。	A	○「宗教カリキュラム」が活用され、子どもたちの行動に表れているのが素晴らしい。 ○担任の先生方による「宗教の時間」の試みに感動した。その意気込みを評価するとともに、子どもたちのみならず、先生方にとって大きな恵みになったのではないだろうか。 ○「宗教の時間」「聖歌の時間」はカトリック園ならではの取組であるので継続してほしい。 ★「宗教の時間」「聖歌の時間」「カトリック研修」での学びが、担任が日常の保育のなかで、補充・発展し、実践を積み重ねていくことを期待している。		
	② 「宗教の時間」で園児が感じたこと、学んだことを、常に意識をし、日常の保育にいかすことができている。						
	③ 「聖歌の時間」で感じたこと、学んだことを、日常の保育にいかし、園児の心の豊かさや感性を培っている。						
3 教育課程の編成及び管理	① 建学の精神、教育目標、園経営方針を踏まえ、教育課程を編成し、柔軟な考えをもち、常にPDCAを行っている。	A	○今週のねらい・指導内容・環境等を明確にし、ふりかえりを行い、次の保育につなげていけるよう、週日案の再構成を行った。その結果、毎日、毎週、毎月、年間の見直しをもち、実践できるようになってきている。 ○今年度の重点目標である図書室の充実については、新しく、広い図書室「えほんのもり」を設置し、司書によるお話し会、日頃の保育での活用、蔵書(約2000冊)環境整備、絵本の貸し出し等、前年度に引き続き、読書活動の充実が図られてきている。 ★教育課程の編成、週日案の作成について、今年度以上に、子どもの実態やニーズに即した検討、PDCAを常時行い、子どもたちにとって学びのある楽しい幼稚園生活が送れるよう園全体で実施していく。	A	○この会議に出てはじめて年間・月間・週日案という存在を知った。 ○幼稚園全体でねらい、保育内容を明確にしたり、振り返りを行うPDCAサイクルを位置づけたりしていることが報告のなかでうかがえた。 ○「えほんのもり」が積極的に活用されており、子どもたちが絵本を開き、読むこと、聞くこと、想像すること、探究することを自然に身近に感じていることがとてもよい。 ○「えほんのもり」の設置により、読書活動の充実が図られたことを高く評価できる。 ○絵本に親しむという幼稚園時代の幸せな思い出が生涯にわたって心の支えになること、それ自体が素晴らしい意味を持ち、幼稚園で培われた本への愛が生涯続くようなアプローチに繋がれば、それはまた素晴らしい。 ★園全体で考え、実践している教育課程について、園だよりや説明会で明確にしたり、光塩幼稚園の実践を保護者とともに進めたりできる方法を探っていく。 ★未就園児の会においても「えほんのもり」を活用していくことも大切だと考える。		
	② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、指導計画を作成している。						
	③ 図書室「えほんのもり」を積極的に活用するとともに、司書と連携し、読書活動を推進している。						
4 教員の指導力向上及び資質向上	① 日々の保育において、一人ひとりの園児の育ちを配慮した指導(指導内容・言葉かけ等)を心がけ実践している。	A	○子どもたちの育ちは様々であり、指導の際、教師自身の言葉かけ、語彙力の豊さが求められていることを、常に意識した指導を行っている。 ○園外研修に積極的に参画をし、日々の保育に組み込もうとしている姿勢が見られる。また、職員会議等において、研修の様子などを報告し、園全体で共有することができている。 ○学園全体の建学の精神を学ぶ研修、日野幼稚園との合同研修(カトリック研修・経験5年目までの職員対象の研修)を実施することができ、教員の指導力及び資質向上につながった。 ★園内研修の充実を図り、園全体の指導力及び資質の向上を目指していく。 ★今年度、日野幼稚園と連携し、「光塩幼稚園研修体系」を作成。研修体系をもとに実践していく。	A	○全ての保育を見ているわけではないが、先生方が温かく見守ってくださっていることを実感している。母子分離から始まる4年保育(満3歳児)から学年相応の指導がなされていると思う。 ○園外研修にも積極的に参画し、園内でも園外研修の内容を共有している姿が伺えた。 ○姉妹園である日野幼稚園との合同研修を通して連携が増してきて、保育の内容、指導力の向上について相乗効果が期待される。 ★園外研修はもとより、園内の課題を明確にし、園内研修をしたり、相互の保育を参観しあったりして個々の指導力を高めるとともに外に開いていくことが必要である。		
	② 日々の指導において、環境構成(整然とした保育室、季節感があふれる掲示等)を行い、園児の感性や創造性、安全面に配慮している。						
	③ 園外の研修に積極的に参画をし、学びを共有するとともに、日々の実践に活用している。						
5 幼児理解におけるチーム連携	① 人権に配慮し、発達段階に応じたかわり、言葉にならないサインを受け止め、園児の気持ちに寄り添うようにしている。	A	○常に、子どもの言葉にならない気持ちを言語化したり、寄り添ったりし、子どもたちが安心して幼稚園生活を過ごせるよう保育を進めている。 ○特別に配慮を要する子どもたちについて、保護者と悩みや課題を共有し、具体的な目標をたて、同じ方向を向き、それぞれの立場で進めることができていく。また、保護者の理解を得、関係諸機関とも連携を始めた。 ★特別に配慮を要する子どもたちへのかかわり方、保育の進め方、基礎知識等について、園全体で共通理解をし、進めていくことが必要である。そのため、研修会やケース会議を実施していく。	B	○光塩幼稚園の特色のひとつとして「きめこまやかな指導」と体現化していると感じる。 ○幼稚園と保護者と連携を図り、特別に配慮を要する子どもたちの対応について、チームで取り組んできた様子が垣間見える報告であった。 ★園児の言葉かけや対応については、常に「子どもの人権」を意識し、教員が意識し合う環境づくりが必要である。 ★特別に配慮を要する園児に対して、意図的・計画的に進めていくとともに、チーム連携を図っていくことが必須であると考える。 ★かけがえのないすべての園児に熱意と対応に力を傾けることこそがカトリック園が向かうべき方向性である。様々な困難があるとは思いますが、経験と研修を積み重ねながら根気よく取り組んでいただきたい。		
	② 幼稚園と家庭と連携を図り、一人ひとりの成長を喜び合うとともに、課題についても共有し、解決に向けて進めている。						
	③ 特別に配慮を要する園児について、特性を理解しかわりについて園全体で話し合いを進め、実践している。						
6 安全管理及び教育環境	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的実施し、防災意識を高めることができていく。	B	○避難訓練(火事・地震を想定)引取り訓練を年間5回実施し、防災意識や危機管理意識を高めている。 ○健康管理・食育について、お弁当の時間に食への興味関心がもてるよう、発達段階に応じた指導を進めている。 ★来年度は、月1回(年間11回)安全指導の日を設定し、危機管理意識や防災意識を高めていけるよう、年間指導計画を作成し、進めていく。	B	○計画的な安全指導及び定期的な点検を実施している報告を受け、安全安心な幼稚園づくりに努めていることについて評価できる。 ○健康管理・食育についても、子どもの食への関心を配慮しながら進めていることは、これからも継続的に進めていっていただきたい。 ★遊具を活用した遊びにおいて、常に、園児の安全を配慮をした保育を心がけていることは評価できる。さらに、子ども自身の危機管理意識、予知能力を育てていくことも必要であると考える。 ★教師自身の危機管理意識を高めていくことが必要である。具体的に、通信が不可能になったり、停電・断水になったりすることを想定した訓練も必要であると考える。		
	② 施設及び遊具等の点検を全職員で定期的に行い、危機管理意識をもち安全管理の徹底を図ることができている。						
	③ 日常の保育において、健康管理及び食育について、園児たちが興味関心をもつような実践をおこなっている。						

7	子育て支援の充実	①	0歳～3歳までの未就園児の各事業が保護者にとって満足できるものになっている。	B	<p>○0歳～1歳未就園児「にじっこランド」では、子育ての先輩であるOGの方にも参画していただき、子育ての相談体制も導入することができ、子育てへの安心感や自信につながっている様子がみられるようになってきている。</p> <p>○満2歳～満3歳児「そら組」については、担当者が企画運営し、親子で保育を体験できるよう進めてきている。</p> <p>★未就園児事業について、保護者にとって満足できる内容を企画立案できるよう、未就園事業の目的、曜日の検討、申し込み方法等の検討を行い、「行ってみよう」と感じるPRも工夫していく。</p> <p>★預かり保育については、保護者アンケートにも預かり時間、保育の内容等にも意見があった。来年度に向け、保護者のニーズや子どもたちの実態を踏まえ、幼稚園でできる保育園的取組をどのように取り入れ、できることから実践し、充実した預かり保育を進めていく。</p>	B	<p>○0歳～1歳未就園児クラス「にじっこランド」の子育てのOGにも参画していただいたことはとてもいい企画であると思う。子育てに不安や悩みを持っている親にとって、安心できる場となっている取組だと思う。</p> <p>○未就園児クラスは、生まれた時から光塩に親しんでもらい、光塩のよさを感じていただけるよい場であるということが実感できる場であると感じる。</p> <p>★未就園児のクラスの企画について、「えほんのもり」での企画を取り入れたり、保護者のニーズにどのように応えていかを考えたりと、アンケートやヒアリングをしながら企画運営をしていくことが必要である。</p> <p>★預かり保育については、子どもたちの状況を大切し、目的、内容、方法等について検討をし、具体的に進めていくことが大切である。</p>
		②	預かり保育の充実(預かり時間、保育の内容等)が保護者にとって満足できるものになっている。				
		③	子育ての相談体制の充実(日々の保護者とのかわり、懇談会等)に向けて、積極的にかかわっている。				
8	幼稚園のPR活動の充実	①	ホームページ、インスタグラム等を活用し、園の特色や子どもの様子を伝え、園のPR活動を積極的におこなっている。	B	<p>○日常の幼稚園生活をPRするために1週間に1度はインスタグラムをあげることを目標に進めてきている。</p> <p>○幼稚園から初等科への架け橋プロジェクトでは、今年度、教員による初等科の授業参観、参観後、初等科と幼稚園との話し合いを実施することができた。</p> <p>★入園説明会、園児募集等を実施した。しかし、園児募集、園児獲得につながらないのが現状である。来年度に向け、オープンスクール(年間3回)を実施し、より多くの方に幼稚園を知っていただく機会を設定する。</p>	B	<p>○ホームページ、インスタグラムについては、改善をしてきている。</p> <p>○「百聞は一見にしかず」オープンスクールはとてもよい企画だと思う。光塩幼稚園のよさ、子どもたちの様子も見ていただき、幼稚園を知っていただくよい機会であると思う。</p> <p>○幼稚園と初等科とのかわりが徐々に一步一步進んできている。</p> <p>★ホームページ、インスタグラムについても、さらなる改善をし、ホームページを見れば、どのような幼稚園かわかるようにさらなる改善をしていくことを期待する。</p>
		②	入園説明会・園児募集について、時期や説明会の内容・方法等、園児募集に効果的なPR方法になっている。				
		③	幼稚園から初等科への架け橋プロジェクトを意識し、連携を図ることができている。				
自由意見		<p>○保育者は本物の教育者であることが最重要であり、その上にどのようなキリスト教の価値観を取り入れていくことではないでしょうか。この幼稚園時代に一人一人の園児が無条件で愛されている、あるいは、無条件で許されることができれば、それは、キリスト教の幼稚園としての使命を果たしたことになるのではないかと思います。</p> <p>○子どもにとってよりよい環境を考え、幼稚園と保護者が共にその環境を創っていく環境を築いていただきたいと願っています。</p> <p>○世の流れに合わせて変わっていく幼稚園の姿、変わらない精神、そして、先生方の取組や研修、劇の裏側など、今までに見えてこなかった事を知ることができ、より幼稚園が好きになりました。この幼稚園を守るためにも、変革が必要とカトリック園としての強味の強化、広報が必要ではないかと感じております。</p> <p>○全体として、年度初めに示された経営計画に基づき、丁寧に実施して成果をあげていると感じています。また、コロナ禍の中での課題であった行事での保護者の参加や卒園生との交流について、教職員が一体となり、例えば、中等高等学校の体育館での運動会の実施、親睦会としてファミリーデーの開催等、新たな取組を、様々な工夫し展開した点、教職員の皆さんのチャレンジ精神と力量が伝わってきました。まさにチーム力です。さらに光塩幼稚園が今まで大切にしてきた不易のものと、これからの新しい時代に求められる事柄を、適切に見極めた教育活動がおこなわれていくことを期待します。</p>					

4 総合的な評価

評価	設定した評価への理由
B	<p>○幼稚園全体・・・学校評価関係者評価委員の方々が、本園の教育目標や重点目標等を理解していただき適切な評価を受けることができた。今後は、その評価について真摯に受け止め、教職員チームになって、改善・工夫を進めていく。</p> <p>○重点目標1・・・「聖歌の時間」「担任により宗教の時間」「宗教カリキュラムの見直し」「カトリック研修」等を実施し、教員一人一人が受け身ではなく、自分自身の保育であるという自覚と認識ができことが成果である。今後は、「担任による宗教カリキュラム」の作成・実践をし、さらなる充実を目指す。</p> <p>○重点目標2・・・図書室「えほんのもり」の教育環境が整い、司書と連携し読書活動を進めている。このことについては、保護者や学校関係者評価委員の方々にも高く評価を受けることができた。今後は、司書との連携を強化するとともに、「読書」を核とした保育実践を進めていく。</p> <p>○重点目標3・・・未就園児クラス、預かり保育の内容・方法等について、現在の実践に対して、さらなる充実・改善を進めていくうえでたくさんの意見をいただくことができた。2024年度にオープンスクールを実施することについては、とても期待し、評価の声が開けた。そのことを踏まえ、今まで以上に、幼稚園の「見える化」を目指す。</p>

5 今後の取組項目

1.保育内容の改善・充実	光塩幼稚園が開園以来、大切にしてきた「建学の精神」を土台とし、今の園児の実態に即した、保育内容の見直しを園全体で実践していく。(バランスのとれた自由保育と一斉保育の改善・工夫、幼児期終了までに育ってほしい10の姿に即した保育内容の見直し等)
2.「読書」を核とした保育	<p>○司書との連携を強化し、「子どものそばにいつも絵本」の教育環境について、図書室から幼稚園全体に広げていく。</p> <p>○「読書」を核とした保育実践を推進していく。(教育計画に位置づけ、読書カリキュラムの作成等)</p> <p>○未就園児のクラスにおいても、図書室「えほんのもり」を活用し、子育て支援の一助とする。</p>
3.子育て支援の充実及び幼稚園のPR活動の充実	<p>○未就園児クラスのカリキュラムのさらなる改善・充実を行い、本園のよさを体験を通して知っていただくとともに次のステップにつなげていけるよう、教職員一人一人が自覚し、進めていく。</p> <p>○今年度も幼稚園のPR活動については、インスタグラムやホームページ、保護者会、説明会等において、改善・工夫を行ってきている。さらに、園児の様子を参観(オープンスクール、自由参観週間などを学期に1回設定し、広報等を進めていく。</p>